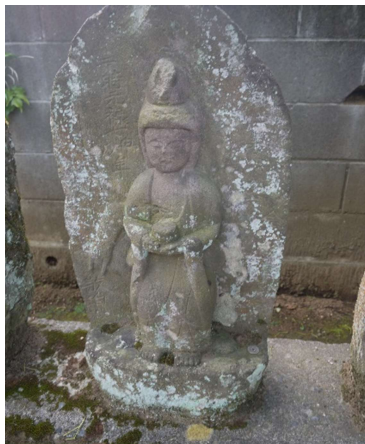




令和5年度 第5回佐倉路地裏探検隊探索
 —船橋市（自衛隊習志野駐屯地）・二宮神社・神宮寺—
 令和5年9月20日（水）



元禄七年造(1694) 薬師如来立像？ 神宮寺



二宮神社前道標兼句碑



船橋市下水道マンホール蓋



薬師寺(88番札所) 馬頭観音群

佐倉路地裏探検隊

1. 千葉の小金牧5牧(下総)、下野牧7牧と嶺岡牧5牧(安房国)について;

1) 下総の牧

(1) 小金牧 ①下野牧(佐倉地区も含む) ②中野牧 ③高田牧 ④上野牧 ⑤印西牧

(2) 佐倉七牧 ①小間子牧(こまこ) ②取香牧(とっこう) ③矢作牧(やはぎ) ④油田牧(あぶらた)
⑤柳沢牧(佐倉地区含む) ⑥高野牧(こうや) ⑦内野牧(うちの)

イ) 享保12年(1727)以前; ①嶺岡牧(みねおか) ②柱木牧(はしらき)の2牧

ロ) 享保12年以降; ①西一牧(にしいち) ②西二牧(にしに) ③東上牧(ひがしかみ)

④東下牧(ひがししも) ⑤柱木牧の5牧

(3) 嶺岡牧

ハ) 明治維新後柱木牧は酪農を営み酪農品を販売していた。嶺岡牧は8代将軍吉宗の時馬約600頭、インド牛3頭をオランダ人より購入し酪農品を製造・販売しました。この牧は日本最初の酪農発祥の地と謂れています

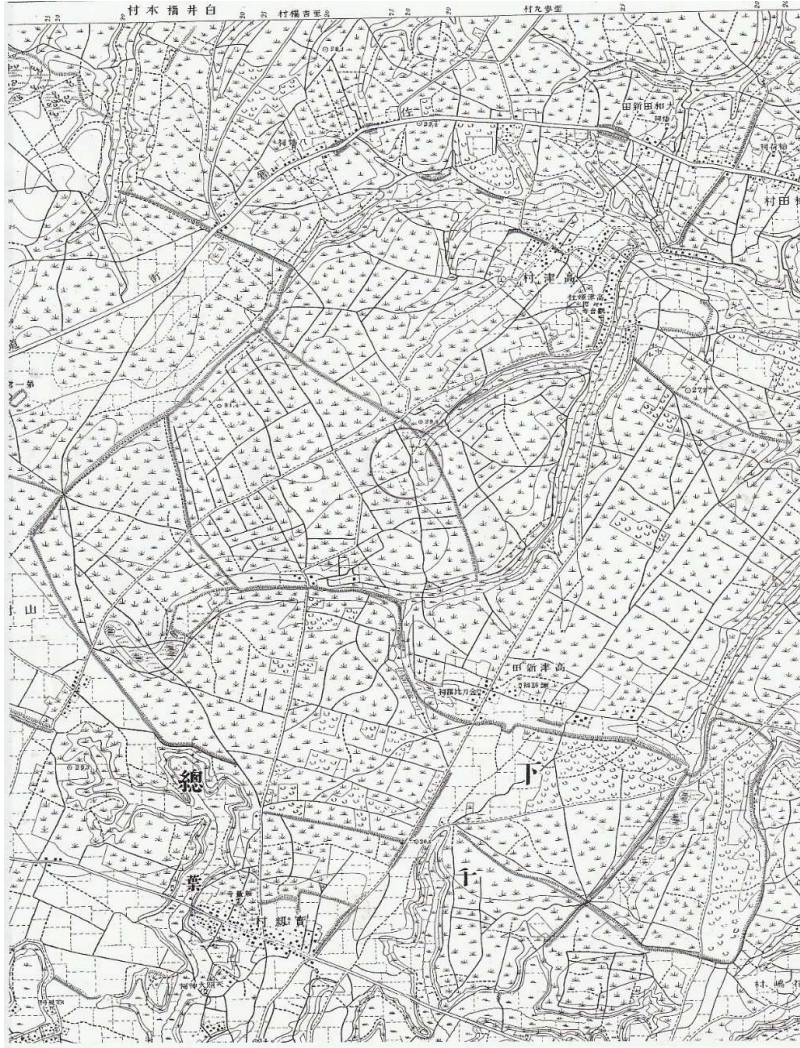


野馬土手と水飲み場

此処に馬頭塚があります!

最新の習志野演習場内部

習志野演習場の変遷を地図より読み取る(明治29年～昭和24年)

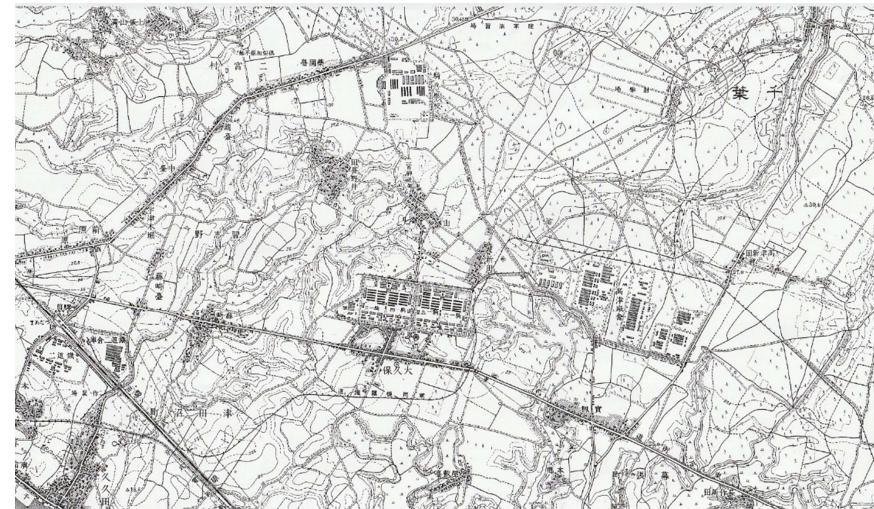


明治29年12月 1/20000

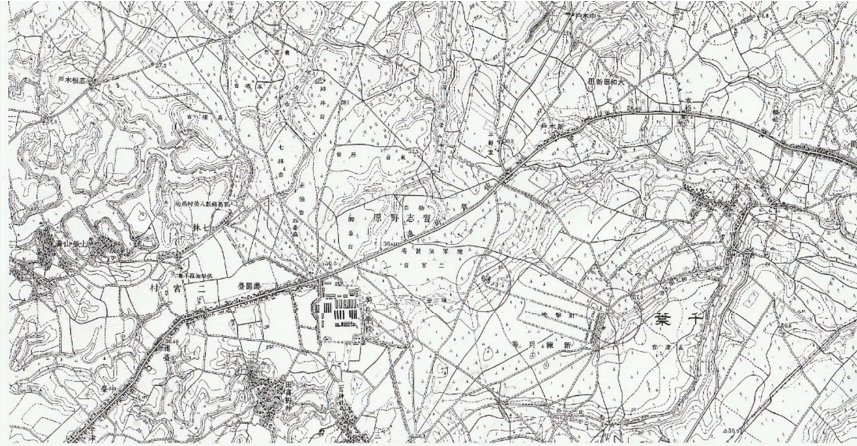
この時代はまだ習志野原野として牧の跡は多数みられる。多くの野馬土手や、水飲み場がこの演習所内を含め周辺地域の存在している。○印は現在の馬頭塚付近です。演習所もなく旧道が四方八方存在するのが読み取れます。江戸幕府が崩壊し、小金牧も本来の放牧地から荒地・畑地になっております



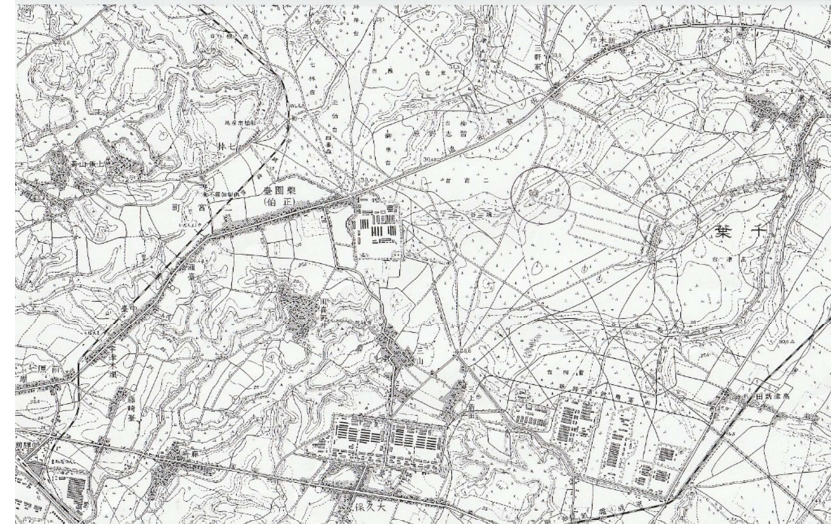
明治43年3月 1/20000



大正14年4月 1/25000



昭和2年7月 1/25000



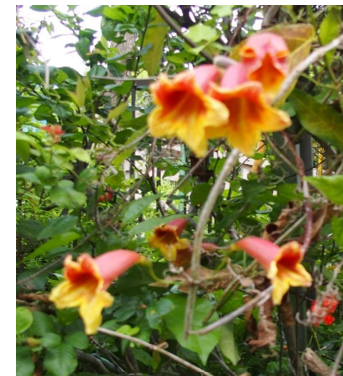
昭和24年7月 1/25000

1. 下総台地【習志野原】が何故演習場に選ばれたのか？

- ①標高20～30mの下総台地
- ②印旛沼に流れ込む小さな川が多い（坪井川・駒込川・境川・駒止川等等）
- ③印旛沼との間に台地斜面があったり谷（分水嶺）や湧水がある
- ④急な崖や緩やかた谷の遊水地がある
- ⑤小金牧・佐倉牧・正伯原等放牧地があった
- ⑥明治2年頃には放牧地等を含め新田が開拓・開発が進み「東京新田」化が進んでいた

このような背景のもとに、陸軍の演習場として度々使用されました。明治天皇が管轄している近衛兵大演習もその一つです。明治7年に小金牧の一部を含め大和田原と呼ばれる一帯が「陸軍演習場」として官有地として内務省が買上を行い「陸軍習志野練兵場」となった。その後拡大していきました。

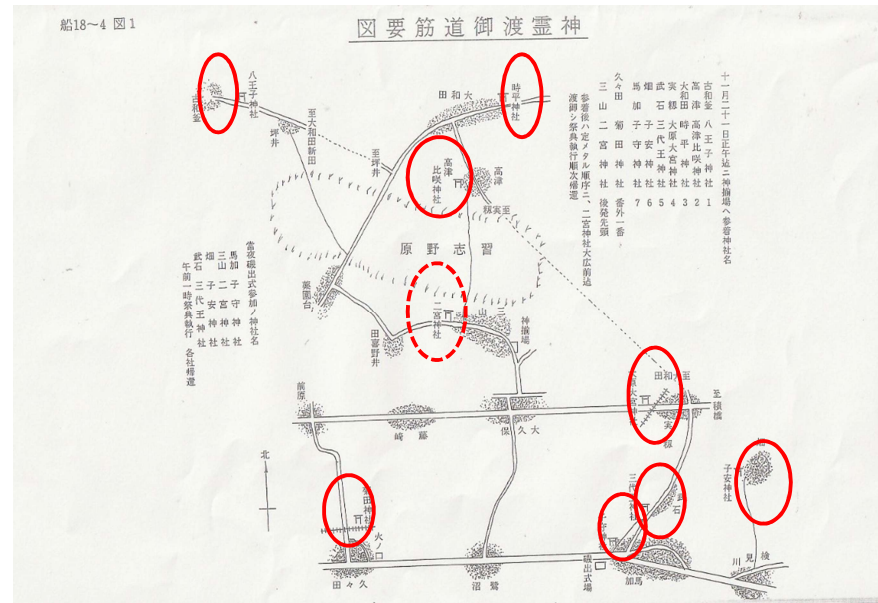
- ①明治32年；騎兵第1・第2旅団が設置
- ②大正6年；陸軍騎兵学校が東京都目黒より習志野駐屯地内に移築
- ③明治34年；陸軍習志野衛戍病院設置
- ④明治38年；実籾地区に糧秣倉庫、高津厩舎が置かれ、ロシア人俘虜収容所として利用（第1次世界大戦ではドイツ人捕虜収容の為習志野俘虜収容所を新設）
- ⑤明治40年に鉄道連隊が転営されました
- ⑥明治41年旧千葉町に鉄道連隊が転営、津田沼に第3大隊がおかれまして。津田沼から習志野の演習場を経て連隊本部（鉄道第1連隊）のある千葉まで軍用軽便鉄道が敷設されました
- ⑦昭和20年8月15日演習場全設備は連合軍の管理下に置かれる
- ⑧昭和25年2月；日本側に返還（演習場、宿舍は昭和27年10月に返還される）
- ⑨昭和二五年月；警察予備隊第一管区総監部新設
- ⑩昭和27年10月保安隊へ改編
- ⑪昭和29年6月自衛隊習志野駐屯地に新設



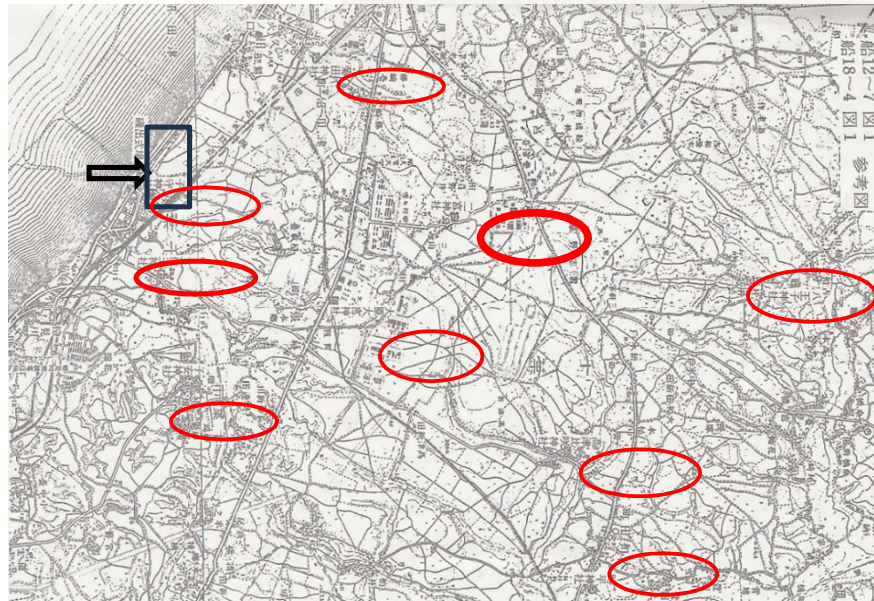
2. 三山の七年祭

1) 下総三山の七年祭に参加する9神社

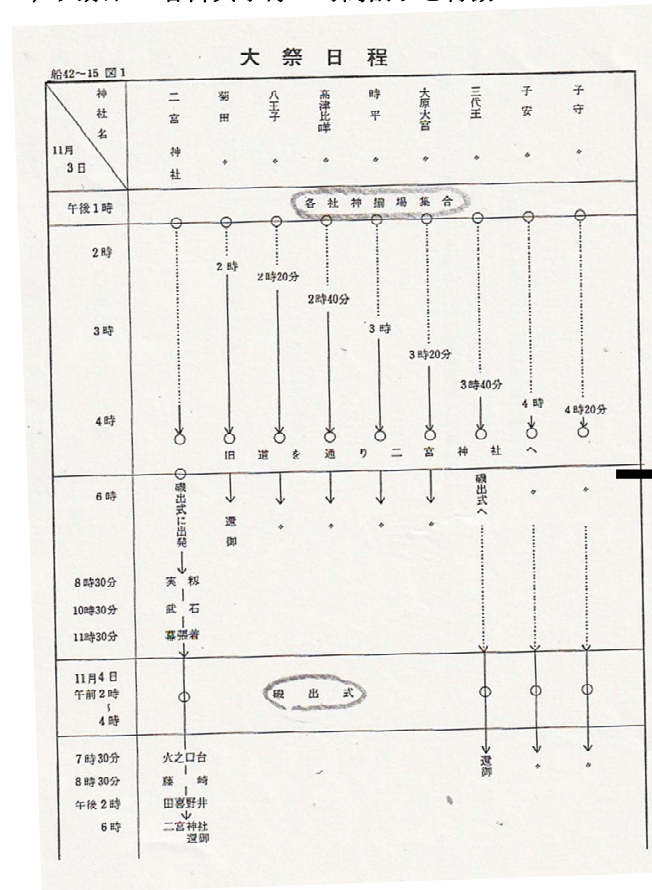
神社 (所在地)	【祭での役割】
①二宮神社 (船橋市三山)	父・夫
②菊田神社 (習志野市津田沼)	伯父 (父母の兄)
③八王子神社 (船橋市古和釜)	末息子
④高津比咩神社 (八千代市高津)	姫君
⑤時平神社 (八千代市萱田町)	長男
⑥大宮大原神社 (習志野市実籾)	叔母 (父兄の妹)
⑦三代王神社 (花見川区武石)	産婆
⑧子安神社 (花見川区畑町)	母・妻
⑨子守神社 (花見川区幕張)	子守



2) 9神社と磯出式場所



3) 大祭日の各御輿子毎の時間割りと行動



9社神輿が勢ぞろい

5神輿は各々の神社に戻る
4神輿は磯出式に参加する為催場へ進む

磯出式 ③式次第;

イ) 大祭の禊(みそぎ)式; 大祭の前夜に大祭参加者の身を清める神事。海水に入った水槽で手を清め、中のアサリを拾います(かつては鷺沼海岸。埋め立て後袖ヶ浦1丁目の習志野市袖ヶ浦運動公園で執行されます)

ロ) 安産御礼大祭; 11月中旬(7年毎)の昼間執行されますが、9社の神輿は船橋市三山の神揃場(かみそろいば)に集まり定められた順番に基づき旧道を七曲して二宮神社に行きます

【神揃場】に集まった神輿は、「おつか」という台座に置かれ、この場所で献弊(けんぺい)使により祝詞を奏上し神輿の中に神様を納める献弊の儀を行います。二宮神社の神輿自身は神事を行った上で神揃場で向かいます

ハ) 昇段参拝; 二宮神社以外の8神輿は決められた順番で二宮神社に昇段・参拝。(昇段参拝とは、神輿を担いで向拝を上り、拝殿に神輿を滑り駒ませ、氏子と共に神輿がお祓いを受けます。参拝後、二宮神社・子安神社・三代王神社・子守神社の4社は千葉市幕張の磯出式を行います。参加しない5社の神輿はそれぞれの神社に還御(かんぎょ。戻る意)それが終わると神輿行列は神社を出発し神揃場に戻ります

4. 散策マップ；



I



II



①



②



③



④



⑤

地区スポット説明

1	2	3	4
<p>東葉高速 八千代市緑が丘駅</p>	<p>旧木下街道沿い・兼坪井街道入口手前の 墓標兼道標（行方不明）</p>	<p>地流地蔵道道標 （貞福寺参詣用道標）</p>	<p>行方不明の道標</p>
			
<p>「八千代道しるべ」より湯浅家の個人墓石</p> <p>平成8年4月27日開業。令和元年時乗降客41,010日/人で西船橋駅に次いで2番目（因みに東葉高速線は勝田台駅・村上・八千代中央・八千代緑ヶ丘・船橋日大前・北習志野・飯満山（はさま）・東海神・西船橋駅の計9駅間を運行。但し東西線に乗入れ。かつてはJR佐倉駅迄延伸の計画がありました。北側には工業団地、京成バラ園、東葉高速車両基地、秀明大・高・中学等、南側に尾はイオンモール、296号、習志野自衛隊等があります</p>	<p>「八千代道しるべ」より湯浅家の個人墓石</p> <p>新木戸の分岐点にある地流地蔵への道標を左折して旧木下街道に入ると、左に三叉路の旧道（坪井道）の手前左側に小さな墓地があり、そこに1基墓標兼道標がありました。現在は整地され、大和田新田付近の寺院か公園墓地に移されたのか？</p> <p>正面には 文化14丑天（1817）3月初9年 戒名 右面 本家高木三右エ門 大和田新田 施主 峯吉 左面 右 よしはし刈 きおろし 左 たかもと又左つほい</p>	<p>正面 血流地（蔵）（道） 右面 左江 成（田） 右江 江（戸）道 左面 貞（福寺） 背面 江戸深川大工（世？）○社中 川崎屋 喜兵衛 石屋勘兵衛</p>	<p>「八千代道しるべ」より</p> <p>新木戸交差点周辺の整備や住宅地整備でここにも行方が分からなくなった道標が1基あります。刻造年なし</p> <p>正面 成田山 是より七〇 左面 きおろし道吉橋 一り塚 大和田町 大〇〇</p> <p>土台込で高さ168cmもある大きな参拝用道標です。何処に移されたのでしょうか？</p>
			
5	6	7	8

自衛隊駐屯地内 1



自衛隊駐屯地内 2



自衛隊駐屯地内 3



自衛隊駐屯地内 4



元々小金牧の内の下野牧跡の外れにあり、野馬土手や水飲み場等が残っています。かつては高津方面から二宮神社への三山七年祭時の旧道があり、その途中には馬頭塚(2期の庚申塔が上部にあり)現在は空挺部隊のパラシュート落下時の落下目安になっています。陸上自衛隊奈良氏も駐屯地(同分屯吉)と航空自衛隊と演習場を共有。習志野駐屯地に所属する第一空挺団が落下傘の落下訓練を行って居ます。災害時対応は勿論北朝鮮・中国等の同行に対応すべく非常態勢を内内とっています。航空自衛隊第一高射群第一高射隊が地対空ミサイル”ペトリオット”(パトリオットではありません)の発車場(基地)でもあります



9	10	11	12
自衛隊駐屯地内 5	馬頭塚	馬頭塚上の庚申塔1	馬頭塚上の庚申塔2
			
	<p>演習場として利用される以前の下野牧時には高津方面より二宮神社や成田街道方面への旧道が沢山ありました。その旧道分岐点には馬頭塚がありました。残念ながら馬頭観音供養塔はなく2基の庚申塔があります。村人は牧監理者の承諾を得て、牧の中の草（牛馬の資料）や小枝等（薪として利用）を得る為牧の中に入る事が許されました</p>	<p>正面；6臂青面金剛・邪鬼・3猿 右目；干時完成4年（1792）丙子10月吉日 下総國千葉郡高津村 左面；高津山観音寺現住 機外恩禪雙代 と刻字 土台4面に名前多数 高津村観音寺に在職する僧侶により刻像されたものです。笠付の立派な庚申塔（右側像）です。二宮神社に赴く途中にあったものをこの馬頭塚の上に移設されたのでしょう</p>	<p>正面；6臂青面金剛像を挟んで右側に 奉待 庚申菩薩諸 願成就処 左側に享保五庚子天（1720）十月吉日 左右面；蓮のレリーフ 土台正面；結衆四十五人と刻字 邪鬼はチャンチャンコを着ています。45名により造立されたものですが、具体的にどの地区の方々なのか不明。笠付ですがこれまた近くからこの馬頭塚に移設されたものです。本来あるべき馬頭観音供養塔は何処に移設されたのか？</p>
			

13

二宮神社前道標



二宮神社前T字路にあります。
正面；延喜式内○○神社 二宮大明神
是ヨリ七丁
耳なくてきかるものよ閑古鳥
遠近(おちこん)庵三市 (※二
宮村の俳人の俳句です)
裏面；安政6年(1859) ○○○○・・
この道標は移設されたものです。その元
にあった場所から7丁(約763m)の場に二宮神社
があった分けです。旧道との分岐点にあった
のでしょうか？

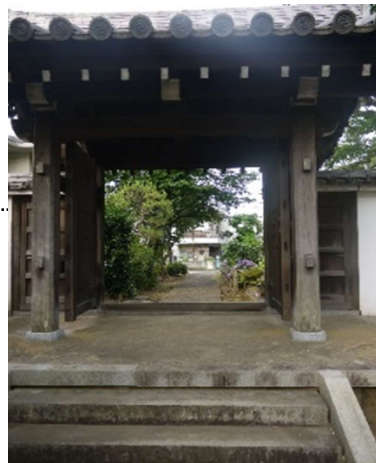


14

医王山神宮寺 本殿



真言宗豊山派寺院。ご本尊は阿弥陀如
来。貞福寺末寺。創建年は不明だが二宮
神社の”別當持”という記述から鎌倉時
代以前ではと推測される。吉橋大師講74
番札所、下総四群88カ所霊場13番札所



15

医王山神宮寺 薬師堂



薬師堂です。御簾の両側の仏像と両側床の間
のケースに入った像(左側6体、右側5体)の
確認が出来ませんでした。薬師像の脇侍は日
光菩薩と月光菩薩であるが？

別寺の薬師三尊像(参考迄)



16

医王山神宮寺 大師堂



吉橋大師講74番札所の大師堂です



17

二宮神社 1



18

二宮神社 2



19

二宮神社 3

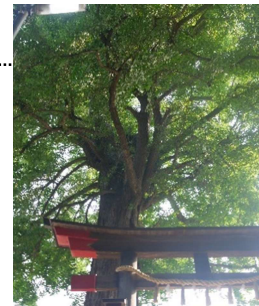
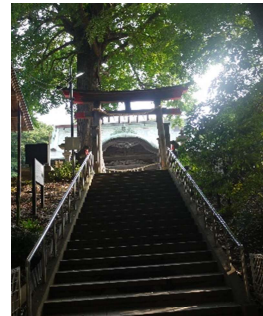


20

二宮神社 4



本殿創立は弘仁年間（810～824）。現在の本殿は安永年間（1772～1781）再建。本殿、社殿は共に大正年間に萱葺屋根から銅板葺きに模様替えしました。それでも市指定文化財の価値はかわらず。社殿は江戸時代に流行した権現造です。鳥居から谷を下り石段を上り始めると唐風の向拝が見えてくる本殿は流造で、本殿全体を彫刻が掘ってあります。軒の組物及び腰組は当時の正規の宮大工によって衣装・造作されたものです。主祭神は検速須佐之男命（たけはやすきのおのみこと）・櫛稲田比売命（くしなだひめのみこと）・大国主命・藤原時平命・大雀命（仁徳天皇・おおさぎのみこと）・誉田別名（ほんだわけのみこと・応神天皇）



21

馬頭観音群 1



交通量の多い旧道沿いに11基の馬頭観音があります。文字塔9、刻像1、不明(剥落)1基計11基です。造立年別では明治4、大正4、昭和2そして文化3年(1806)と天明3年(1783)の計11基です。文字塔で前面左側の明治45年の土台には「馬講中」、中央にある大正15年の文字塔の土台には「運送連」と刻字されています。明治末頃には馬の保有者が多く、水田耕作用、あるいは荷馬車の運送に利用されていたのでしょ。大正昭和初めにはまだ車社会でなく荷馬車が多かったのでしょうか。この場所の馬頭観音は1カ所に集約されて供養されています。出来るなら、具体的刻字等の説明書きがあると良いのですが



22

馬頭観音群 2



馬頭観音群の中で唯一の刻像です。天明三年十〇吉日と造立年が刻字。天明3年は浅間山の噴火に伴う天候不順、不作等により佐倉市先崎を含めた佐倉藩の百姓一揆が勃発した年です。馬頭観音群の中の唯一の刻像で頭部に馬頭が、憤怒の表情で手は印口を結んでいます



23

薬師寺



薬師堂、薬師院等いろいろの呼称がありますが正式には「薬師寺」です。真言宗豊山派の寺院で習雲山瑠璃光院。河内の國(大阪南部)の豊臣勢に加担した郷士の市角頼母が大阪冬・夏の陣で破れ(※一帯どこの藩の誰に仕えたのか?)一族郎党を率いて大久保地区で機能し豪勢を占めた。後に大久保に移住し名主に就く。長男は下屋敷があった現在地に持仏の福寿薬師如来を奉祈した。長女は河内の國の誉田の里にある八幡宮を分神して大久保の地に祀り、その後近くの誉田八幡宮に祀られました



24

観音堂と薬師堂馬頭観音群



因みにこの寺院は吉橋十善講88番札所です(八千代市尾崎にも88番札所があります)谷関東91薬師霊場の80番ふだしよです。習志野七福神の弁財天が祀られています。大師堂の後ろ側に馬頭観音が並んでいます



駒形の馬頭観音供養塔の上部には○型の中に馬頭が刻像されているのでなく□の中に馬頭が彫られています。珍しい彫り方です。注目!隣付近には線画の馬が彫られていました。残念ながら刻像の馬頭観音はありませんでした

京成大和田駅の朝の混雑状況



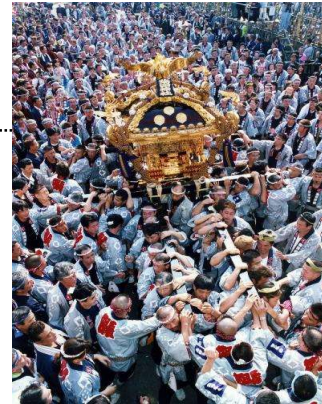
特に通学時間帯に開放される下り線改札口は日大生産工学部、東邦大学、東邦大付属東邦高校等の学生・関係者で改札口に長蛇の列でホームは一杯。下り方面の乗客はこの為電車には乗れません。通学時間を除けば下り側の改札口はシャッターが下り出入りが出来なくなります



大祭 1



大祭 2



大祭 3

